

## 避難訓練・防災教育 報告

9月3日（木）3時間目LHRの時間に避難訓練・防災教育が行われました。

今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、リモートによる防災教育の形になりました。

当日は長野市消防署安茂里分署 消防士 伊藤さん、信州大学工学部教授 不破先生のお二人をお招きし、防災に関する講話を各教室で聞き、学習を行いました。



9月3日(木) 避難訓練・防災教育 生徒の考察・感想

(長野市消防署安茂里分署 消防士 伊藤氏の講話)

- ・ 自助(自分の身は自分で守る)、共助(共に助け協力する)、公助(国や自治体による救護活動)で自助が最も大切。
- ・ 自助、共助を意識した行動をしたい。
- ・ 当り前のことを当り前にできるようにする。
- ・ 自分の命を守り、他の方々と協力していきたい。
- ・ 自分の命、家族の命を守るために災害のことに関心を持つようにしたい。
- ・ A(当り前のこと) B(馬鹿にしないで) C(ちゃんとやる)
- ・ 当り前のことをおろそかにしない。
- ・ 守られる立場から守る立場になって欲しいということが印象に残った。
- ・ 他人に守ってもらうという考えではなく、自分は自分で守ることを大切にしたい。
- ・ 防災や減災に興味を持ち、自分に何ができるか考えたい。
- ・ 自分自身の行動が大切。
- ・ 災害で人を助ける立場になった時、しっかり動けるように災害について備えておきたい。
- ・ 自分達で身を守り、地域の方々と助け合うことが大切。
- ・ 命を守るために災害に関心を持ちたい。
- ・ 地震など災害が多い国に住んでいるので、防災について詳しく調べたい。
- ・ 防災グッズを用意しておきたい。
- ・ 無関心が一番危険。

(信州大学工学部教授 不破先生の講話)

- ・ 正しい行動をするために正しい情報を入手する。勝手に状況判断して行動しない。
- ・ スマホだけに頼るのではなく、ラジオ等の放送からの地域の災害情報も必要。
- ・ スマホに災害用アプリを入れるようにしたい。
- ・ 災害による停電でスマホなど身近な物が使えなくなるかもしれない。
- ・ 雨が上がっても危険がなくなったわけではない。避難してからも、正しい情報で行動したい。
- ・ ラジオや防災アプリ等、普段から使っていないといざという時に使えない。日頃から活用したい。
- ・ 大雨の際は、雨量も大切だが河川の状況を把握することが大切。
- ・ 河川水位のピークは、雨より遅れることもある。
- ・ ネットより放送をもっと活用し、いざという時に困らないようにしたい。
- ・ 事前に大規模災害の備えを行い、災害時は落ち着いて行動したい。
- ・ 家族との協力も重要。
- ・ 家族間の連絡がとれるようにしておく。
- ・ ICTで安心・安全のまちづくりが行われていることを知った。
- ・ 一度避難したら安全になるまで家には戻らないようにしたい。
- ・ 何をすることも準備が必要。
- ・ 自分の身の回りの危険な場所や災害時の避難ルート、避難場所を確認しておく。災害時は、すぐに避難できるようにしておきたい。